

記憶に残る国体に 第65回ゆめ半島千葉国体 子どもたちの手づくりのおもてなし

感動のうちに閉幕した千葉国体。浦安市では、10月2日から4日まで公式競技として空手道が開催され、またデモンストレーション競技としては3B体操とビリヤードが行われました。これらの競技に参加する選手を気持ちよく迎えるために、市を挙げて取り組みを進め、市内各学校でもさまざまな活動を行いました。

歓迎の気持ちを込めて

県内各地に、チーバくんをあしらったのぼり旗やポスターが掲示され、国体開催の盛り上がりを感じたのはつい先日のことです。浦安市でも、大会成功に向けて、子どもたちを中心にさまざまな活動をしました。

小学校では、各クラス1枚、のぼり旗を作成して各都道府県の選手を歓迎し、応援する内容でオリジナルティあふれる作品に仕上げました。担当する県の方言や特徴、特産物などを調べ、それにちなんだ言葉や絵をあしらうなど、学習と絡めて作上げる工夫もしていました。市内

各所で温かみあふれる作品などを目にした方も多いことでしょう。それにより各都道府県への興味もわき、児童たちにとっては国体を身近に感じる貴重な有意義な経験となりました。

また、中学校では大きな横断幕を作成。競技開催中は競技会場に飾られ、会場の雰囲気盛り上げました。特別支援学級では、記念となるコースターや軍手を製作。大会の記念にしてほしいと、出場選手に贈呈しました。

市内の高校へは、歓迎の気持ちを込めた自由な作品を依頼しました。4校とも参加し、書道部や美術部



浦安市総合体育館に掲示された横断幕

による個性的な垂れ幕やパネルなどを制作。開催期間中、選手や観戦者の動線となる会場周辺に展示され、記念撮影のスポットにもなりました。

心に残る貴重な体験

開催に先駆けて行われたポスター展には、小学生から高校生まで、約300点の応募があり、6月に行われた100日前イベントでは入賞作の表彰も行われました。また、開催期間中にも展示が行われるなど、長期間にわたって大会を盛り上げる取

り組みがあつたのも特徴です。

8月から浦安市総合体育館で、ペトボトルのキャップを貼り付けたパネル作りも始まり、子どもからお年寄りまで、キャップさえ持参すれば誰でも参加できる取り組みで話題になりました。どんな絵が出てくるのかは完成するまで分からないというお楽しみ企画でしたが、無事完成。チーバくんやURAYASUの文字が浮かび上がった巨大パネルは、会場を華やかに彩りました。

これらの活動の一つ一つが重なり、皆の手でおもてなしをしたことが、国体を成功に導いたと言えるでしょう。特に各学校では、創作活動を

通して児童生徒たちの国体そのものへの関心も高まり、競技観戦への興味も大きくなったようです。ゆめ半島千葉国体は、スポーツだけでなく、さまざまな経験をj得る場ともなり、県民参加のイベントとして記憶に残る大会となりました。



大会中、のぼり旗が各都道府県代表の選手たちを出迎えた(浦安市運動公園)



東京学館浦安高等学校美術部の作品も、市役所ロビーに展示され、大会前の雰囲気を盛り上げた



入賞ポスター作品の一部



特別支援学級の子どもたちが心を込めて作った品々には、メッセージカードが添えられた

PERSON

国体に出場しました



明海中学校所属の佐藤友美先生は、ホッケー成年女子の部千葉県代表で出場を果たしました。

スポーツで輝け!

浦安市は「生涯スポーツ健康都市」を宣言!

私たち浦安市民は、日ごろからスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、豊かなスポーツ文化を育むことで、一人ひとりが生涯にわたって心身ともに明るく健康であることを願い、ここに「生涯スポーツ健康都市」を宣言します。

- **いつでもスポーツ** 日ごろからスポーツに親しみ、明るくいいき暮らしましょう。
- **たのしくスポーツ** スポーツを気軽に楽しむ場をつくりましょう。
- **ずーっとスポーツ** スポーツ活動を支えるサポーターを育てましょう。
- **みんなでスポーツ** スポーツを通して地域と友情の輪を広げましょう。



のぼり旗の作成指導をした先生の感想(舞浜小学校)

のぼり旗に書く言葉は、みんなで考え、分担して仕上げました。自分たちが作る県を地図で確認し、特産物を調べてイラストにしたり、応援の言葉をその県の方言で書いたりしました。全部のクラスの作品を体育館に掲示すると、子どもたちの目が輝きました。子どもたちが、千葉県以外の都道府県にも興味を持ち、国体への関心を高めていくのを感じました。

